

平成19年度農林水産大臣賞

『野口集落(源氏の里づくり会)』 山形県最上郡戸沢村

【位置】



【むらづくりの経緯・動機等】

・野口集落は、ほかの集落と比べ、比較的若い農業後継者が多い地域である。しかし、米価下落や副業先の建設業の低迷が離農・人口流出を招き、集落自体の存在が危ぶまれるとの危機感が高まった。

・今後さらに担い手が減ると、貴重な地域資源である農地や農業用施設を管理できない等、地域農業に対する不安が生まれた。

・集落の将来を語るため座談会を開くが、いつも同じ顔ぶれで、発展的な意見が出ない。そこで、老

若男女が幅広く集まれるよう、集落初のワークショップを開催し、意見交換しながら地域全体の声を集約した。その結果、集落の将来ビジョン等むらづくりの目標が掲げられ、集落総意で活動を実践していく機運が高まった。

・源氏ポータルが舞う美しい環境

と、その環境をシンボルとした魅力ある地域づくりを実践するため、「源氏の里づくり会」を設立した。

【推進体制】

・地区会長を中心に「源氏の里づくり会」を結成する。傘下に3つの部会（農業部会、環境部会、女性部会）を置き、住民全体で活動する体制を整える。

・支援組織である「ふるさと保全隊」「妙見塾」「NPO北

斗星」と連携し、地域ぐるみで環境保全活動等に取り組む。

【地区の概要】

項目	内容	
規模	集落 (1集落)	
性格	山間農業地域	
農家率	75 %	
(内訳)	総世帯数	45 戸
	農家数	34 戸
販売農家数	30 戸	
(内訳)	専業農家	— 戸
	I兼農家	5 戸
	II兼農家	25 戸
主要作物 (産出額)	水稻 (村全体)	1,270 (百万円)
農用地の状況 (内訳)	耕地計	84 ha
	田	79 ha
	畑	4 ha
	樹園地	— ha
	牧草地	— ha
	耕地率	98.5 %
	1戸当たり面積	2.8 ha



ミニトマトのハウス栽培

【生産面への寄与状況】

・都市農村交流を通し学んだ「安心安全」を第一義に、また、地域財産である「米」を優位販売するため、特別栽培米の生産を始める。山形セクション認定を取得する等PR活動も積極的に取り組む。

・「冬期間でも地元で働きたい」という地元青年の思いが、施設用地調整に集落や行政を動かし、集落の一等地にビニールハウス7棟を設置。ミニトマ

ト栽培に始まり、水菜や小松菜も手がけるなど、周年農業に向けた取組も進む。

・若者のチャレンジに触発され、高齢者が農作業を手伝う等地域コミュニティの再生にも寄与している。

・都市住民との環境保全活動等の取組から、安全安心な「地元農産物」を「野口ふるさと便」として直売するしくみが生まれる。NPO北斗星会員のPRもあり、集落と都市住民間で信頼感が熟成される。



野口ふるさと便

【生活・環境整備面への寄与状況】

・各種補助事業により地域環境整備が進み、そんな中、「源氏の里づくり会」を中心とする環境保全活動が評価され、「農地・水・環境保全向上対策支援実験事業」実施地区に指定される。

・地域のシンボルである地域公園「源氏館」を整備し、ヤマユリが群生する見事な環境に生まれ変わる。



源氏館に群生するヤマユリ

・都市住民との交流が、地域環境や資源を守る「参加型交流」へと進展し、地域住民と一体となって、花の植栽や田植え体験、ビオトープ作り、メダカ放流などの活動をしている。

・「タッタ狐」伝説から、野口集落へ、美しい環境を守る新たな伝統を引き継いでいる。